

令和7年度第3回(第38期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和8年1月26日(月)午前10時から11時05分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 802会議室
- 3 出席状況 委員 山本巖委員長、谷口卓副委員長、久保賢治委員、
飛田ひさ子委員、石田みゆき委員、松井里華委員、
内藤明子委員、李受眞委員、澤根緑委員
事務局 嶋野文化振興担当部長、加藤生涯学習担当課長、
天野生涯学習推進グループ長、袴田指導主事、
鈴木主任、新林
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 生涯学習推進大綱の改定について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田指導主事、鈴木主任、新林
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
2 委員長あいさつ
3 議事
・生涯学習推進大綱の改定について
■事務局から、生涯学習推進大綱の改定と今後のスケジュールについて説明
■意見・感想・質疑応答
- 澤根委員：
今回の大綱案では、前回に比べ色彩が増しイラストも充実したため、とても身近

に感じられる。また、パブリックコメントにおいて、市民の方から多くのご意見をいただくことができた。これらが大綱案に反映されており、とてもよいものになってきている。

内藤委員：

澤根委員と同意見である。多様な意見を取り込んでおり、素晴らしいものになった。大綱案にある講座・教室のイベントに関するQRを読み込むと、講座名が羅列されているページが表示される。講座の種類ごとに整理するなどしたほうが見やすいのではないかな。

事務局：

各課で実施する講座情報をオープンデータとして掲載しており、カテゴリー別に統一されていない部分もある。庁内での調整等も検討していきたい。

飛田委員：

大綱の考え方は素晴らしいものであり感激しているが、現実には理想と離れているのではないかな。「いつでも、だれでも希望に応じて学ぶことができる」と掲げているが、特に、現役世代を中心に生涯学習に関わるのが難しい側面がある。現役世代が学びやすい環境を考える必要がある。

私事だが、仕事が始まる前の時間を使って小学校で読み聞かせのボランティアをしている。ボランティア後、職場に直行するが、数分遅れる可能性もあるため、ボランティア前にタイムカードを押させてもらえないかと職場に相談をしたところ、「そのようなことを言う職員は今まで誰もいなかった。」という返事だった。これが、現実なのだなと思った。働きながらでも地域貢献しやすい環境づくり、まちづくりが必要ではないだろうか。働いている人も含めて、浜松に住んでいる全ての人という考えでPRがなされれば、学びの環境も変わると思う。まち全体で、生涯学習への理解が深まり、地域のためにこういうふうにやりたい、こういうふうになりたいという声への理解が深まることで、生涯学習の場が豊かになると考える。

小学校での読み聞かせをきっかけに、自分なりに絵本の勉強もするようになり、図書館にも通うようになった。学習する前とは、少し違う人生が開けてきている。学びが人生を豊かにするのだと思う。生涯学習は高齢者だけでなく、現役世代も含め、多くの市民に浸透する方法を考えなくてはならない。リモートなどオンラインは便利であり、働いている人たちにとって、とてもよいシステムだと思うが、もっと身近な地域でできることも必要ではないかな。

働く世代も含めて、すべての市民にとって身近な生涯学習について考えていくことが、浜松をさらによいまちにすることにつながると思う。

山本委員長：

現役世代、さらには定年延長で65歳、さらには会計年度で70歳ぐらいまで仕

事をしている人が増えている。働く世代へのアプローチは、重要である。

谷口副委員長：

私も皆さん同様、読みやすく、分かりやすいものになったと感じている。前回までの大綱案は読んでみると引っかかる箇所が多々あり、その都度メモをしていたが今回はなかった。また、パブリックコメントから出てきた多様な意見を取り入れており、さらに色彩やイラストも増えたことで、区分けが分かりやすくなった。14ページの図においても、前は堅苦しい感じであったが、よく工夫されており分かりやすいものになったと感心した。

山本委員長：

14ページの図はどういう方からアドバイスをもらったのか。

事務局：

非常に熱心に生涯学習について考えておられる方で、今回の修正において、その方の意見が他の箇所においても反映されている。

李委員：

パブリックコメントの意見が大綱案に反映されており、市民とつくり上げたといえるものになっている。パブリックコメントの3ページに高齢者や視覚、聴覚など様々なハンディキャップを持つ方々という記載があるが、この表現だと身体障害に対するイメージが強くなるのではないか。「身体的、精神的など様々なハンディキャップを有する」という表現でもよいのではないだろうか。

事務局：

表現について検討する。

李委員：

イラストについて、外部に発注しているものならばイラストレーターの名前を記載する必要があるのではないか。

事務局：

確認する。

久保委員：

パブリックコメントでは様々な視点からの意見が集まっており、今回の大綱案にはそれらが反映されている。市民と一緒につくっているという感覚があり大変よかった。

これからは、浜松市として生涯学習を持続可能なものにしていくことが重要にな

ってくる。学校現場の立場で見ると、今の子どもたちが地域で学ぶ経験をし、大人になったときに地域貢献していこうという心を育てていくことが大切かと思う。そのために、子どもたちが地域の多様な活動に参加し、経験を積むことが大切になってくる。浜松市と大学との連携事業では、地域の協働センターや小中学校にも学生が講師として赴き、講座を行っている。大綱の12ページにも記載があるが、これからは人材の育成が大事になってくる。大綱に地域リーダーの養成として、スポーツ振興課の地域スポーツ指導者養成事業、こども若者政策課の青少年リーダー養成事業などの記載はあるが、地域のリーダーを養成するための事業内容等の紹介はどこに掲載されているか。

事務局：

各課に確認して、どのようなものがあるか改めて皆さんにお伝えしたい。

久保委員：

私の子どもは高校生で、青少年の家が主催する子ども向けのキャンプにボランティアとして関わっており、指導者としての講習会にも参加している。こうした経験が今後、地域での活動や生涯学習の取組につながっていくとよいと思っている。

高校生や大学生が地域のリーダーになり、人材バンクのような形で登録されていけば、生涯学習がより充実していくのではないだろうか。

また、教育委員会には、部活動の指導員に大学生が登録できる制度があり、放課後に大学生が部活動を教えに来ている学校もある。こうした若い人材は今後増えていくとよい。そのためにも若い世代向けの取組など人材育成に関する紹介を充実させていくことが必要だと感じている。

石田委員：

パブリックコメントの意見を見ると、多様な視点で大綱について意見をくださっていることがわかる。また、それらの意見への回答は、専門的なことを勉強していなくても、分かりやすい表現になっている。

「市の考え方の公表」の資料は大変勉強になった。この資料を読んだ後に、改めて大綱案を読み返すと理解が深まった。生涯学習というと、机上での勉強と思っている方が多いのではないかと思うが、勉強だけではなく新聞を読む、ラジオの講座を聞く、ボランティア活動なども生涯学習である。大綱案には生涯学習について分かりやすく書かれており、改定後は大綱を読むことで一般の方も生涯学習への意識が変わっていくとよい。

企業による地域貢献への意識も変わってくるとよい。働いている方に、学校での授業支援をお願いすることがあるが、仕事があるため行きたいのに行けないことがある。地域や学校でやっていること、課題等を地域の企業と共有することができれば、企業と地域・学校が連携・協働することができ、企業の地域貢献に対する意識も変わってくるのではないか。企業が地域貢献しやすい仕組みができるとい

いと思う。地域・学校・企業、みんなで地域の子どもたちを育てているということが出来るまちになってほしいと思う。

地域の「はたちの集い」で、多くの人が進学や就職で浜松を離れていることが分かった。また、将来戻ってきたいという人も本当に少なかった。私も1度浜松を離れたので、一度は浜松を出てみたいという気持ちは分かるが、浜松を離れると、改めて浜松のよさが分かると思う。また、戻ってきたいと思えるような地域づくりが必要である。

松井委員：

パブリックコメントの様々な視点からの意見が大綱案に反映されている。大綱は完成に近づいてきているが、実際に大綱が出されてから成果が出るのは何年も先になるのではないだろうか。大綱を完成して満足するのではなく、ぜひ有意義な使い方をしてもらい、市民の皆さんの生活が豊かになるとよいと考えている。

久保委員：

15 ページの附属資料のところだけ字体が違うが、ここだけ明朝体になっている。これは統一するか。

事務局：

統一していく。

山本委員長：

14 ページの図の中の地域団体の中に婦人会という表現がある。これは現在も存在するのか。

澤根委員：

婦人会は減少してきている。

飛田委員：

記載のある老人クラブは、名称がシニアクラブに変わってきている。

事務局：

老人クラブについては、シニアクラブに変更していく。婦人会という名称の変更等はあるのか。

澤根委員：

女性部など、名称は地域によって異なるのではないか。

内藤委員：

私の住む地域では、女性部ではなくサポート部となっており、男性でも入れるようになっている。

事務局：

表現は、地域によって様々だと思われる。婦人会という表現は削除していく。

山本委員長：

「市の考え方の公表」の資料の4ページ質問の2に、幸福度を測定する尺度を教えてくださいという質問があるが、回答に具体性がないように思える。尺度を教えてくださいと言っているのに対して施策を進めてまいりますという回答になっており、回答の意図を説明してほしい。

事務局：

幸福度は国を含め、様々な機関が考え方を示している。市では、幸福度の向上をうたっており、様々な考え方に注目し今後も検討する必要がある。そのため、具体性について言及せず、このような回答になっている。なお、生涯学習の取組は、自己肯定案の向上や人とのつながりの形成などを通じて幸福感を高める効果が期待できることから、本市としては幸福度の向上を目指した施策を推進していくという姿勢を書かせてもらった。

飛田委員：

冒頭の委員長の挨拶の際、出席したシンポジウムにおいて幸福度は日々の生活に学びがあるかどうかで差が出るという話題があった。そこに、幸福度を測る尺度についての言及はあったのか。

山本委員長：

そこまでのものはなかった。

飛田委員：

能動的に勉強する人のほうが幸福度は高くなると思う。学びたいと思えるものが市内に多くあれば、幸福度も向上していく。市内に様々な学びの選択肢があると、求めているものが見つかりやすくなり、幸福度向上につながるのではないかと。

4. 連絡・報告事項

■事務局から以下の内容について連絡

・浜松市と大学との連携事業「成果報告会」について

令和8年2月26日(木) 浜北文化センター 13時30分～

・次回、社会教育委員会開催予定について

第4回：令和8年3月24(火)にて調整中

5. 閉会